



インタビュー

国際科学技術コースの設置で優秀な外国人留学生を受け入れたい！

研究室だより

「京の伝統工芸一技と美一」

季節のたより

京の風情、秋から冬

人物往来

忘れない学生生活の経験
東洋留学の酸、甘、辛、苦

トピックス

ベトナム社会主義共和国のハノイ医科大学と学術交流協定
大韓民国の水原大学校と学術交流協定
江島学長が水原大学校で講演
国際交流プロモーター就任ご挨拶

京都工芸繊維大学
国際交流センター

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

Tel:+81-75-724-7128 Fax:+81-75-724-7710

E-mail:ab7128@jrn.kit.ac.jp

<http://www.kokusai.kit.ac.jp/japanese/>

<http://www.kit.ac.jp/>

禁無断転載

京都工芸繊維大学

国際科学技術コースの設置で 優秀な外国人留学生を受け入れたい！

大学院工学科学研究科長
工学科学部長 教授

柴山 潔

現在、本学の大学院工学科学研究科は生命物質科学域、設計工学域、造形科学域の三つの学域に分かれており、その中で博士前期課程（修士課程）には十の専攻があり、博士後期課程にはそれぞれの学域に連結した三つの専攻があります。そしてこれらの専攻の他に先端フアイプロ科学専攻という、学部に足を持たない博士前期課程と博士後期課程で一体型の独立専攻があります。

従来、その先端フアイプロ科学専攻にのみ国際科学技術特別コースを設置していましたが、今後、趣旨はそのままにそのコースを全ての専攻に展開し、研究科全体として国際科学技術コース（国際コース）というものを設置しようと検討しています。この国際コースの趣旨は、先ず学術交流協定を結んでいる外国機関の学生を学生交流事業として優先的に受け入れるというものです。一般学生は修士課程が二年で博士後期課程が三年というのが標準の在学期間ですが、この国際コースでは標準の在学期間が修士課程と博士後期課程を合わせて四年となっています。この国際コースを全専攻に展開して、できれば博士の学位を取得して修了して

いただきたいと希望しています。先ずは私費の外国人留学生を対象としていますが、今後は国費等の外国人留学生が配置された場合も、この国際コースで受け入れていきたいと思っています。

入学の時期は四月と十月がありほとんどの学生は主に四月に入学しますが、外国人留学生の場合は十月入学も奨励していますので、この国際コースの学生は十月入学が基本となります。ですから国際コースの設置は二〇〇七年四月を予定しています。が、実際の学生の受け入れは十月入学からになると考えています。

この国際コースの特色は、英語で授業を行うことにあります。博士後期課程では外国人留学生に対しては英語で対応するなど、従来もほとんどの授業を英語で受講することが可能でした。一方、修士課程では普通は日本人の学生がほとんどなので日本語で授業を行っています。国際コースの学生に対しては少数数の英語授業を行うことにしています。今後は英語の授業を増やすことにより国費等の留学生が配置されるようなアピールもしていきたいと考えています。従来はどうしても日本語の

授業を受けなければならぬという点で外国人留学生を受け入れる際の障害となっていました。優秀な外国人留学生を受け入れるために現地に教職員を派遣しコーディネーターを紹介して様々な宣伝活動を行っています。が、そこでもやはりもし英語の授業だけで修士や博士の学位を取ることが可能であれば是非本学に入学したいといったニーズがあります。英語による授業がないというだけで入

学をあきらめる人がありましたので、国際コースの設置はその障害を取り除くものになります。国際科学技術コースの設置によって協定校からの勉学の意欲に燃えた優秀な学生を受け入れていければと思っています。



京の伝統工芸―技と美―

大学院工芸科学研究科基礎科学部門 助教授

澤田美恵子

この教育プログラムは一昨年から始まったもので、「京の伝統工芸―技と美―」という名前になったのは二〇〇六年度からです。基本的にはいろいろな京都の伝統工芸の職人さんのところへ学生が少人数でお邪魔させて頂いて、見学をさせて頂くというプログラムです。その中で、例えばこれからどうしたら伝統工芸を生かしていけるのか、学生たちのそれぞれ専門の先端的な技術と伝統工芸とを掛け合わせることで、何かイノベーションを生み出せないか、といったことを学生自身で考えるというものです。

日本人は割と自分の文化に対して知らないことが多いように思います。国際的な舞台で活躍するようになったときに、専門については話せるけれども、日本の文化とは何かとかがどういふものがあるのかと、自分の大学の地域にはどんな文化があったのかとかについて、話せないといったことがないように頑張ってほしいと願っています。ですから、このプログラムの中で、日本人学生には、自分の大学の地域にはどういふ文化が根付いているの

かということを経験的に知ってもらいたい。また、留学生であればその留学した場所の文化がどういふものであるのかを、肌で感じて学んでほしいと思います。その五感で感じ取った文化というものが一番大切だと思っています。

重要なのは、この授業がキャリア教育の中に位置づけられているということ。ですから、例えば就職をしたあと会社の中で違う分野の人たちが協力し合いながらひとつのプロジェクトをやっていくといったときに、自分を表現し、他者とコミュニケーションできる能力を身につけるといふ目的もあります。本学は工科系の学生と芸術系の学生とが混在しております。その中でまた留学生もおりますが、あえて同じ分野・文化の人を集めたグループを編成することはせず、異分野であったり異文化の学生と一緒に協力し合うというグループにしています。そうして異なったバックグラウンドを持つ人同士が協力しながら何かを生み出していくというものを目指しています。

また、「仕事というのはどういったものなのか」ということを考える機会を与えたいと考えています。伝統工芸のお仕事をされている方というのはお金だけ

ではなくて、やはりいいものをつくりたいとか、本物をつくりたいとか、そういった心意気というものがあつたんです。自分はこの仕事をするために生きていくというような感じがあつて、そこが、学生達に見てほしい一面なのです。例えば、就職しても人は何回も躓くであろうし、そういったときに心の中にしっかりととした礎のようなものがあれば、例えばどんな困難に遭ったとしても、私はこのために仕事をやるのだとか、私はここだからこそ生き生きとできるのだとか、私はここでこそ生き生きとできるのだと、立ち直れると思うのです。そういった礎を大学にいるときに築いて次に向かってほしい、そのように思います。



京の風情、 秋から冬



朝夕の涼風や稲の垂れ穂に秋の風情を感じはじめると、ここ京都にも秋の足音がきこえてきます。そして管弦祭などの中秋の名月にちなんだ行事が催され、本学キャンパスより北に望む山々の装いにも、深まる秋を感じられるようになります。

古都・京都では、紅葉を愛でる慣習やその心が、時代を超えて脈々と受け継がれています。

古来より和歌にも詠われている紅葉の名所、奥嵯峨・小倉山。その紅葉は絢爛の一言です。各地が野山の錦を求め人々で賑わうこの時期、嵐山周辺の水辺や竹林を情緒豊かな陰影で演出する「花灯路」や、壮観な紅葉を一層引き立てる各寺社の夜間ライトアップなども、近年の恒例イベントとなっています。

紅葉を輝かせた露時雨が雪へと移り変わり、雁の群れが鴨川に空高く飛びかうこの季節。家々の通り庭にも木枯らしが吹きはじめ、いよいよ冬も本番です。

古都の冬はまさに底冷えの寒さ。師走の年の瀬には、古都の台所・錦市場がその年一番の活気を見せます。そして大晦日の晩、除夜の鐘が各地に静かに響きます。

光明の新年を迎えた人々は初詣に出掛けます。参拝先の寺社の庭園や山野の雪景色を愛でるのも一興でしょう。

やがて、各社寺で節分祭りを終えるころには梅花の蕾がふくらみ始めます。早梅を求め山野を逍遙する鶯の声を聴くと、雪解けの春も間近です。



人物往来

忘れられない学生生活の経験

工芸学部 生産機械工学科 (八九年卒)

エン・ヒヤップ・レン

Sony EMCS (Malaysia) Sdn. Bhd
Engineering Division, Senior Manager

今振り返って見ると、大学を卒業してからもう一八年になり、本当に時間の流れは早いと感じました。私の日本での生活は、八四年、マレーシアの高校を卒業してから大阪へやってきました。まず一年間、大阪の日本語学校に通って日本語を勉強しました。日

本で文部省の試験に合格してから、八五年、京都工芸繊維大学工芸学部の生産機械工学科に入学し、四年間、京都の大学生生活を送り、八九年に卒業しました。そして関西の生活を見送って、関東の企業「ソニー(株)」会社に入社しました。また四年間、東京の生活を過ごしながら、Walkman商品設計の仕事に身を付けてきました。関西五年、関東四年、この九年間日本での生活をいろいろ経験したが、やはり強い印象に残っているのは関西の学生生活でした。感情が暖かい関西人が大好きでした。特に関西への言葉が懐かしくてたまりません。

大学生活の中で、真面目で親切な教授の先生方に恵まれて本当に幸せでした。技術者として必要な基本専門知識を一つ一つ丁寧に教えていただきました。本当に感謝いたします。特に四回生時、塑性加工研究室に入社して、担当教授の方々、福田教授、山口教授、森助教授、高倉助手、や先輩たちとの勉強環境は、楽しく過ごしました。皆さんと一緒に勉強したり、研究したり、たまに遊んだりします。

また、あるときは苦しく徹夜しながら実験を行ったときもありました。こんな高生活は、もう二度と経験できないと思って最高でした。さて、大学を離れてから、仕事関係以外の専門知識は、ほとんど忘れられましたけれども一つだけ大学生生活の経験として忘れられないことがあります。それから、私の貴重な経験を皆さんにご紹介したいと思えます。

まず、学生の頃、誰でも自分が嫌いな授業、嫌いな先生などの経験はあるでしょう。こんなとき、貴方はどう受けとめますか?言うまでもなく、私も一般学生と同じように嫌いな授業をさぼったり、嫌いな先生は逃げたり、結局は悪い結果になった辛い思いがありました。長い時間をかけて反省した結論は、逆発想で嫌いな授業から好きな授業に換えて、気分も変えて、そうすると、やる気が段々湧き出して自分の目標を一つ一つ達成できました。本当に不思議なマジックです。いまでもこの逆発想マジックを信じて、私の人生を大きく支えて毎日楽しい日々を過ごしています。特に、仕事の職場で、この逆発想をうまく使

えば問題を解決して、自分の目標を達成することができると、簡単に言うとも、職場で自分が好きな仕事はわずかに、三割しかないもので、どうやれば七割嫌いな仕事を済ますか?また、嫌な上司との人間関係は、どう対応するか?と言う問題点から見ると、どうやって良い結果を出せるか本当に人生の勝負に掛かると思えます。

おかげ様で、この逆発想マジックが私の人生を支えてくれて、一五年間、海外ソニーで仕事をうまくやり遂げ活躍することができました。工場の皆さん、ありがたうございます。最後に、この場をお借りして大変お世話になった留学生担当の吉井さんをはじめ生産機械工学科の教授の先生方に、心から感謝を申し上げます。

東洋留学の酸、甘、辛、苦

工芸学部 物質工学科 四回生
シャ・ヨウ(謝燁)

中国では、生活は調味料のように、酸っぱさ、甘さ、苦さと辛さも味わえるという古い諺がある。つまり、生活は決して順風満帆だけでは

なく、転倒、失敗することもあるということである。我々は悔しいこと、苦しいことを乗り越えることで、一層、人生の楽しみと、充実感を感じ、人々とふれあひながら生活していくべきである。

多くの留学生と同じように、将来、私も、高速経済発達国、人材競争の激しい中国でい仕事を見つければ、二〇〇一年に国内の専門学校を途中退学し、日本に留学してきた中国で日本語学校を半年間通いながらも拘らず、日本に着いて、自分の日本語能力の薄さに、心痛く感じた。完全に自信を無くし

た私を暖かく包んでくれたのは、当時、通っていた京都文化日本語学校(元京都国際外国語センター)の先生方である。先生方のお陰で失った自信も取り戻し、より一層頑張る胸を磨き、三年前に国立大学の京都工芸繊維大学に余裕を持って入学することができた。その中で、一番印象に残っている先生は常に笑顔で迎えながら、面白い授業をして下さる初級の安達先生と卒業クラスの担任として、大学に進学する学生たちの様々な面倒を見てくれた上級の香月先生である。

毎日、家を出たら、学校とアルバイトに行く単調な生活、バイト先で暇もなく働いても入ったばかりの私に向けられたのは先輩たちの嫌がらせと店長の批判しかない。厳しい現実であった。そして、初めて親元から離れ、日本という外国での一人暮らしは、非常に寂しかった。自立生活と言え悲しい時、悔しい時、人に言えないまま自分で処理しなければならぬ時等々を思い出しながら、夜枕元で静かに涙を流したのが、三回あった。

京都に着いた一週間後、私は友達との紹介で西向日市にある中華料理屋でバイトをし始めた。その頃、学校でアルバイトを始めた人はほとんど、みんなが憧れていた学校生活の近くに安いのアパートに住んでいた私は

アルバイトに行くのに、自転車、電車、歩きの三つの交通手段をとらなければならなかった。しかも、家から、バイト先まで、往復三時間も掛けるが、それでも、喜んで時給七五〇円を貰いながら、洗い場をやっていて店に入って、一ヶ月あまりのある日、アルバイト中、指二本を缶の切り口で切り、血が止まらなくなり、すぐに、病院に送られた。結局、一針を縫合して一ヶ月休んだ。その頃の私にとって肉体的な痛みはどうかは関係ないことであつた。特に、国の親に心配させないようには、はつきり言えない時が辛かった。

京都工芸繊維大学に入学できたのは私の人生で一番嬉しい事である。大学で専門的な知識も学べ、たくさんの友達もでき、充実した大学生生活を送っている。

本学の一員として一番感謝したいのは留学生のお世話をして下さる国際企画課の先生方である。吉井課長を始め、豊井さん、長坂さん、澤田さん、坂井さんは、留学生と日本人との友好交流、奨学金、国際交流会館のことについていつも親切に対応してくださっている。今年から、新しく入られた田尻圭章と野嶋保長も今年KIT中国新入生歓迎会に参加していただいで、本学の中国新入生歓迎会に感謝します。これからは是非留学生の応援をいただきたいと思います。

去年の九月、中国から戻ってきた私は急に体調を崩し、入院することになった。でも、入院時、保証人が必要だった。私は、頭を悩まし、国際企画課で保証人のことを相談していたら、後ろに座っていた吉井課長が「謝君、保証人のことなら心配しないです。してあげるから。とりあえず、体が一番大事だから、頑張って治しな」と心優しく言ってくれた。そのお陰で、私は無事に入院し、健康を整えることができた。

半月の間、病院での静養でやっと退院ができた。そして、学校に通いはじめると、しばしば国際企画課の先生方から慰問の電話がかかってきた。これは私にとって、何年たっても忘れられないことだと思ふ。先生方に励まされ、私は自信を持って、その後の就職活動でもさらに力を尽くした。いくらか努力活動と、それに応じる成果を出せるといつも親が言ってくれたように、今年の六月に私は富士電機ホールディングス株式会社の内々定を獲得した。

まだまだ頑張らないといけないことがいっぱいあると思うので、困難を恐れず、自分に自信を持ち、今の努力は将来の成功に必ず導くと強く信じ頑張っていきたいと思ふ。

ベトナム社会主義共和国のハノイ医科大学と学術交流協定

2006年4月14日に、ベトナム社会主義共和国のハノイ医科大学と大学等間学術交流協定を締結しました。京都工芸繊維大学にて調印式が行われ、ハノイ医科大学からはグエン・ランヴィエット学長ほか5名が来学されました。

京都工芸繊維大学とハノイ医科大学は、既に機能性食品や診断マーカーなどの開発の研究を共同で行ってきましたが、今後は、これら共同研究を深めるとともに、医用材料、遺伝子診断、医療情報などの「医用工学」の分野にその研究対象範囲を拡大します。ベトナム社会主義共和国の大学・研究機関との協定はこれで5例目になります。



大韓民国の水原大学校と学術交流協定

2006年5月30日に、大韓民国の水原（スウォン）大学校と大学等間学術交流協定の締結及び学生交流覚書の交換を行いました。京都工芸繊維大学で行われた調印式には、水原大学校からチェー・クワン・スー国際部長を含む24名が列席されました。

水原大学校は、10学部10研究科を持つ総合大学で、学生総数は1万3千人を超え、特に造形分野の研究に優れた業績を持っています。本学では、水原大学校を大韓民国における研究拠点の一つとして位置づけ、デザイン、建築、美術のほか材料科学等の分野での交流を予定しています。



江島学長が水原大学校で講演

2006年11月13日～14日に本学の江島義道学長が大韓民国の水原大学校を訪問しました。この訪問は、水原大学校理事長からの強い要請により実現したものです。滞在期間中、江島学長は「Visual structure of a Japanese Zen garden」と題して水原大学校の教職員・学生に向け、約1時間の講演を行いました。学長は水原大学校で暖かい歓迎を受け、リー・イン・スー理事長をはじめ、各学部長と今後の交流の可能性について意見交換を行うとともに、水原大学校の学生作品展のテープカットにも来賓として参加しました。両大学は本年5月に学術交流協定を締結し、9月からは水原大学校より交換留学生を2名本学へ受入れており、活発な交流が始まっています。



国際交流プロモーター就任ご挨拶

国際交流センター 助教授 塩川雅美



はじめまして。2006年4月に国際交流センター所属の教員として着任いたしました。主な仕事は、「国際交流プロモーター」として以下の業務を行うこととなっています。1) 交流協定締結大学等との間の学生の双方向交流、具体的な派遣計画に至る調整、企画・計画等の作成、2) 交流プログラムの改善に向けた検証、3) 留学生科目「日本事情」を担当すること、です。京都工芸繊維大学は、外国人留学生の受入れにおいては国立大学法人の中にあって全在生数に占める外国人留学生の比率が高く、また国費外国人留学生よりも私費外国人留学生を多く受け入れているという特徴があります。また日本人学生の海外派遣については、「国際基幹技術者養成教育プログラム」というユニークな取り組みを行っています。これは、海外の交流協定締結大学等に派遣された大学院生が、指導教員のDispatch（派遣）授業の補助や、単独での特別研究に取り組むものです。これからの国際社会で活躍できる、グローバルな人材育成に微力ながら貢献できるよう務めてまいりたく思っております。

International Planning Division 国際企画課

This division deals with all the administrative aspects of the International Exchange Center. Please feel free to contact us.

国際企画課は、国際交流センターに関するすべての事務を担当しております。皆様からのご連絡を課員一同お待ちしております。

